

湘南地区 防災まちづくりワークショップニュース 4

～柳島自治会館 海岸集会所にて、防災まちづくりワークショップが実施されました～



防災まちづくりワークショップとは…

災害に強いまちづくりを進めていく上で重要なことは、市民と行政等が、それぞれの役割を担い、継続的に取組を進めていくことです。

今回は湘南地区をモデル地区とし、市民と行政が共に協力して、地域から何ができるのかということを全4回のワークショップ形式で話し合っていきます。第4回の平成26年2月23日（日）では、住民や中島中学校生徒会の皆様など31名の方にご参加いただきました。

第4回のワークショップでは、「地域で取り組みたいことを考える」ことを中心に行われました。

前回のふり返りの後、地域で取り組みたいこととしてアクションプランを作成していただきました。各班から3つの“これから取り組むこと”をご発表いただき、最後には、東京大学加藤先生より今回のワークショップのまとめのご講評をいただきました。

◆ワークショップ参加者◆

（住民）湘南地区住民の皆様 中島中学校生徒会

（有識者）東京大学 生産技術研究所 加藤孝明准教授 小田切利栄特任研究員

（茅ヶ崎市役所職員）

1

当日の様子（開会のあいさつ）



＜ワークショップで行うこと＞

第1回（平成25年11月24日）
防災まちづくりについて知る

第2回（平成25年12月8日）
まちあるきで資源と課題を見つける

第3回（平成26年1月19日）
防災まちづくりマップを作る
未来の柳島について考える

第4回（平成26年2月23日）
地域で取り組みたいことを考える

■ 2月23日のワークショップで行われたこと ■

◇前回のふりかえり	（前回のふり返し） （東京大学 加藤准教授からのコメント）
◇アクションプランを作ってみよう！	（各班での話し合い）
◇各班のアクションプランの共有化	（各班からの発表） （意見交換）
◇防災まちづくりワークショップのまとめ	東京大学 加藤准教授

発行：茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

発行日：平成26年3月

TEL 0467-82-1111（内線：2504）

FAX 0467-57-8377

前回のふり返し（第3回目までの議論のまとめ）

前回のふりかえりでは、第3回目までの各班の話し合いをふまえて、議論の全体像をつかむため、全班共通のイメージ・キーワードをとりまとめてご紹介いたしました。

<10年後の柳島をこんなまちにしたい！！全班共通イメージ・キーワード>

つながるまち

- ・こどもからおとなまで縦のつながり
- ・一部から全部へのひろがり
- ・取組を動かすには自分たちが動く
- ・調和・融和
- ・お・も・て・な・し
- ・他自治会・民間企業とも連携・協力
- ・地域とのかかわりが深い
- ・どんな人ともあいさつ
- ・普段からの助け合い
- ・新しい住民を受け入れる
- ・みんなの防災意識を高める

2

防災“も”まちづくり

たのしいまち

- ・楽しみながら訓練
- ・おまつり おみこし えんころ節
- ・防災リーダーでないと
おみこしが担げない!?
- ・全員が防災リーダー
- ・学校で防災リーダー研修
- ・子どもたちが頑張れるまち
- ・元気な高齢者

やさしいまち

- ・長寿 健康
- ・スポーツ公園 スポーツで健康
- ・スポーツしながら防災・まちを学ぶ
- ・太陽光
- ・無駄がないエコなまち
- ・わかりやすい道路・避難路

＜地域で取り組みたいこと 全班共通キーワード＞

意識・体制	広報・PR
■ 災害時の地域の取り決め、マニュアル ■ 雰囲気作り 根回し ■ 皆に説明、納得して取り組んでもらう ■ アンケートで防災意識の把握 ■ 防犯パトロール、要援護者対策パトロール ■ 愛好会（地域の青年団）、まちづから協議会等の団体との連携	■ 地域に関わっていない人の興味を引くイベント（婦人会のイベント、料理、B級グルメ 等） ■ 地域イベントでの防災グッズの販売 ■ 今回の話し合いを地域の人に伝える ■ 防災の日、防災週間、防災強化月間
つながり	地図
■ 地域のコミュニケーションの改善 ■ 関心のある人が広がっていく ■ 新しく来た人を受け入れる ■ 自治会の加入促進 回覧板を見てもらう ■ 小中学生のボランティア(排水溝掃除) ■ 助け合いの事前登録、自己紹介交流会 ■ 次世代に引き継ぐ準備	■ 避難場所、避難ルートのマップづくり ■ 消火器・消火栓のマップづくり ■ 浸水想定箇所(被害写真付)のマップづくり ■ 防災マップを皆に知ってもらう、活用してもらう ■ 町内の掲示板にマップを貼る
訓練	ツール・設備
■ “楽しい”“お得感のある”防災訓練 ■ 消火器、消火栓の取り扱い訓練 ■ 災害の危険性の説明 映像を見てもらう ■ 全ての人の参加、役割を設定 ■ 各自治会でのワークショップの実施 ■ 地域の変化に合わせ、避難訓練を改良して行く ■ 大地域リハーサル（丸一日の避難訓練）	■ 防災備品の共有化 ■ 海拔表示などの看板の設置 ■ 防災無線 ■ 携帯電話等への自動連絡 ■ 行き止まり看板 ■ AED ■ 非常電源 ■ 太陽光発電、太陽光活用の看板等 ■ 安くて手軽な警報機、消火器
避難・避難生活	建物・施設
■ 水の確保、井戸の場所の把握、状況確認 ■ 無事の確認 避難完了カード(とき色のタオル)を掲げる ■ 空き地の地主さん、大きなお屋敷の家主さんと一時避難の取り決め ■ マンションと飲料水(タンク)の協定 ■ 飲食店・スーパー・病院との協定	■ 相模川の堤防の問題 ■ 木造建物の建て替え ■ 敷地の最低限度規制 ■ 浜見平団地の建て替え ■ 学校や施設の屋上利用 ■ 公共施設の再配置 ■ 畑、駐車場(空地)が少なくなっていく ■ 公園を増やす、空き家を公園にする ■ 災害時に利用できる建物、施設の協定（スポーツ公園、学校、病院等）
火災・倒壊・浸水等への対策	まち・道路
■ 消火器、消火栓の場所の把握、目立つように色塗り等 ■ 自治会で消火器を準備、防災リーダー宅へ配置 ■ 各家庭の消火器の確認 ■ 移動ホースの拡充・増設 ■ ブロック塀の倒壊防止 ■ 古い家の耐震診断 ■ 電柱や道路標識、看板の見直し ■ 土のう袋の準備 ■ 3mの水害に対応出来る避難場所の検討	■ 道路整備、行き止まり道路の改善、セットバック ■ 消防自動車を通れる道づくり ■ 電柱の地中化 ■ スポーツ公園に合わせて幹線道路の整備 ■ 区画整理、再配置 ■ コミュニティバス ■ どんな人でも避難先がわかるまち ■ 自転車道の整備 ■ バリアフリーな道路

アクションプラン（地域で取り組みたいこと）についての共有

「アクションプラン（地域で取り組みたいこと）の共有」では、「アクションプランを作ってみよう！」で各班で話し合った内容をご発表頂きました。

1 班の話し合いの結果（発表）

< 10年後の柳島をこんなまちにしたい!! >

“防災まつり”ができるまち

< 地域で取り組みたいこと >

< すぐ出来ること >

ワーク ショップの 結果報告会

（どんなふう to 実施するか？）

- ・近隣自治会と連携！
- ・各団体メンバーを取り込んだ防災組織
- ・自治会組織を使って、3～4回に分け、100人ずつぐらいで
- ・災害の危険性を知ってもらい、半分おどかしつつ、半分楽しみつつ

班の中での連携強化

→あいさつから

防災まつりの下地づくり
（地域で防災の話が出来る
雰囲気作り）

< 3～5年後に
出来ること >

スポーツ 公園で 防災まつり

・スポーツ公園開園日(平成30年3月25日)のこけら落としは
“湘南地区防災まつり”！

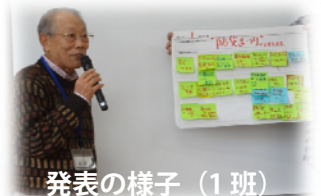
- （どんな競技をするか…？）
- ・カエルキャラバン的なもの
- ・防災機材の扱い方競技大会
- ・担架レース、消火器レース
- ・班別対抗の訓練・運動会
- ・非常食早食い競争
- ・消火器・消火栓のある場所スタンプラリー
- （多くの人が参加してくれるには…？）
- ・1杯飲みながら参加出来る！（屋台など）
- ・防災リーダーだと屋台が割引になる！

防災を担う人材育成

< 10年後には出来ること >

地域ぐるみ 防災のまち

- ・地域ごとのおみこしに愛着を持っている
- “おまつりが中心のまち”だから…
- ・みこしバカを活かす！！
- ・防災みこしを担ぐ！



発表の様子（1班）

< 発表要旨 >

- ・東日本大震災から3年が経過し、地域全体で防災訓練等にとりくんでいく意識が徐々に薄れてきている。そのため、地域全体の人に防災意識を持ってもらうにはどうしたらいいのかを考えた。
- ・10年後の柳島は“防災まつり”が出来るまちになってほしい。ハード面の整備はもっともだが、まずは防災まつりができるような雰囲気作りをしたいと思った。
- ・地域で取り組みたいことの内、すぐ出来ることとして、今回、色んな立場の方の意見を話し合ったこのワークショップの結果を地域や自治会に報告していこうと考えた。方法としては、班単位の説明会を開こうと考えている。そのため自治会組織の班を強化していきたい。また、合わせて近隣自治会との連携を行っていきたい。
- ・3～5年後には、柳島スポーツ公園が出来るということなので、そのこけら落としを是非やってみたいという、そのぐらいの意識で防災まつりの雰囲気作りをしていきたいと思った。
- ・防災まつりとしては、先日連合会で行ったカエルキャラバンなどのような、子どもからお年寄りを含めて全員が参加出来るようにしていきたい。
- ・10年後には、“地域ぐるみ防災のまち”としていきたいと考えている。他地域の人からも参考にしていただけるような防災の“楽しい”まちづくりをしていきたい。

< 10年後の柳島をこんなまちにしたい!! >

子どもから大人まで縦のつながりを持ち 一部から全部へと広げていく町

< 地域で取り組みたいこと >

①防災月間で 防災体験イベントを企画

- 起震車 ■演劇 ■防災訓練の内容紹介
- フォトコンテスト（賞品あり!）
 - ・防災訓練の時の様子を写真に撮って
- 防災グッズ展示・販売会
 - ・消火器を安く販売してもらう
- 古くなった消火器を使って消火訓練

②お祭り（人が多く集まる場） で楽しい防災イベントを発表

- 景品付きのチラシを配布
- 自治会員向けにチラシを配布して、
防災訓練の時にレトルトカレー等と交換

③子ども会特別企画として、 定例の防災レッスンを開催

- 年〇回など、定例で防災レッスンを実施。
- 証明書を発行する。ちゃんとしたカード。
- 年ごとに更新。更新するごとに「レベルアップ」していく

5

< 発表要旨 >

- ・10年後の柳島は、“子どもから大人まで縦のつながりを持ち一部から全部へと広げていく町”をテーマとして、普段あまり、防災に意識がない人にも参加していただくには、どうしたらいいかということを話し合った。
- ・取り組みたいこととしては、防災月間には起震車をお願いして子どもたちも喜ぶイベントを企画したり、防災グッズを展示したり、訓練の様子のフォトコンテストで商品を用意すること等を考えた。古くなった消火器を実際にまいてみる体験もしてみたい。また、合わせて、安心して買える消火器をイベントの時に業者さんに相談して安く販売してもらったり、地域でまとめて購入すること等もできると良い。
- ・多くの人に防災のことを知っていただくために、大勢の人が集まる時に防災イベントの発表等をして、知っていただきたい。また、回覧版を通してチラシを配り、イベント時には半券を持ってくるとレトルトカレーと交換しますよ、といった景品付きのイベント等もいいのではないかという話が出た。
- ・子ども会の特別企画を立てて、防災のこともやっていきたい。
年に数回防災のレッスンをしたり、柳島独自のかわいいカードを体験したらもらえるようにしたい。大人は救命講習を受けるとカードがもらえるので、子どもにも年ごとにレベルアップ出来るようなカードを渡す仕組みにしたい。
- ・学校の文化祭等のイベントにも協力していけたら、といったことも話し合った。



発表の様子（2班）

<10年後の柳島をこんなまちにしたい!!>

あたらしい住民を受け入れると共に、
大人と子どものあいさつを通したぼうさいまちづくり

<地域で取り組みたいこと>

①子どもから高齢者まで参画できる楽しい訓練

（ゲーム感覚、中学生の協力、地域と市で何をするかマニュアルづくり）など

②飲料水・生活用水の確保、井戸水の定期検査（市）、所有者との 協定・ステッカー貼り、ポンプ補助金（市）

**（まずは）10年後
まで生きていたい!!**

③防災マップ作り・活用

（まちを知ろう！（防災だけでなく）、みんなでチェック、若い人
をまきこみ地図作戦（パソコン）

6

<発表要旨>

- ・柳島は新しい住民が入ってきている地区でもあるので、10年後の柳島は「あたらしい住民を受け入れると共に、大人と子どもがあいさつができるまち」になってほしい。
- ・地域での取り組みとしては、子どもから高齢者まで興味を持って楽しく参加出来る訓練をしていきたい。中学生に協力いただいて、ゲーム感覚で小学生も楽しめるように、地域と市でどのような訓練をするか考えて、マニュアル等を作っていきたい。
- ・災害時には「飲料水の確保」の問題が考えられる。地域には多くの井戸があることから災害時に井戸を活用したいと思う。持ち主の方の協力はもちろんだが、水が安全に飲めるように市の補助を得て、井戸水の定期的な検査を行いたい。検査で安全が確認された井戸には安全であり災害時に使えることを示したステッカーを貼りたい。ポンプがない井戸には市の補助でポンプを設置していきたい。
- ・地域の方と、どのような所が危険か、どのようなところを直していくか伝える防災マップを作っていきたい。パソコンの得意な地域の若者（20代～30代）を仲間にして、防災マップを自分たちで作っていきたい。
- ・以上の様な取り組みをしていくことで、10年後にはもっともっと住みやすいまちになっていくと思う。

< 10 年後の柳島をこんなまちにしたい！！ >

**スポーツを通じて子どもから大人まで
健康で防災に強い町、またエコの町**

< 地域で取り組みたいこと >

防災マップの作成

防災井戸及び家庭井戸の確認と点検

避難場所への太陽光発電の活用

< 発表要旨 >

- ・ 10 年後の未来の柳島としては、“ スポーツを通じて子どもから大人まで健康で防災に強い町、またエコの町 ” としていきたい。
- ・ 地域で取り組みたいことは、防災マップの作成である。さらに、防災マップをより具体的にわかりやすくするために、防災リーダーも入って、3 班くらいを 1 つの小単位にした取り組みをしていきたい。
- ・ 井戸を持っている人に協力してもらって、災害時に飲料水と防火用水に使えるものを明確にするよう点検して行きたい。さらに、防災マップに井戸の場所をとりいれて作成して行く。
- ・ 避難場所の太陽光発電の活用を行政と地域で協力して進めていきたい。具体的には、しおさい公園の広場を避難場所として活用していく。

7



発表の様子（3 班）



発表の様子（4 班）

ワークショップの全体を通しての感想や、他の方への質問等の意見交換を行いました。

■住民から加藤先生へ

【住民】

- ・2週間ぐらい前、NHKのニュースに加藤先生と茅ヶ崎市役所の方が出ていた（平成25年2月3日に東大にて行われたシンポジウム“時代の潮流を踏まえた防災まちづくりのあり方・進め方～地域の多様性への対応と普遍化～”のパネルディスカッションの映像）。その際にどのような話をしたのか簡単でいいので教えてください。

【加藤先生】

- ・共助をふくらませて、いかに社会を活性化していくかというのが今回のシンポジウムのテーマであった。その中で、先駆的なことを行っている地域として葛飾区と茅ヶ崎市の方に来ていただいて、今回のワークショップ等を含めて事例紹介をしてもらった。首都圏を中心に100名ぐらいの行政職員の方等にご参加いただいた。議論の要点は、防災まちづくりにとって共助はもちろん不可欠だが、行政と地域の役割分担をどう設定すると共助がふくらんでいくかという話であった。
- ・上のシンポジウムでの講演の内容自体は、今回のワークショップの第1回目にお話ししたとさほど変わらない。つまり、NHKで取り上げられるほどの最先端の議論をこのワークショップの場でも行っている（かもしれない）ということ意識して頂いて、この先も防災まちづくりの取り組みを進めていただけたらと考えている。

■住民から中学生へ

【住民】

- ・発表の中で柳島新聞のことが出ていたが、具体的にどんなことをやりましょうか。ぜひ、やりたいのですが。新年度になったら早々に連携をとっていきましょう。

【中学生】

- ・年2回ぐらい集まって、これからどんなことをするか話し合って新聞にしていきたい。

【住民】

- ・我々も活動を進めて、新聞で紹介していただけるようにしていきたい。



回答の様子

9

防災まちづくりワークショップについてのまとめ

加藤先生からワークショップ全体を通じての講評をいただきました。

- ・この地域の特徴として、“**楽しく**”というのが共通したキーワードとして感じられた。防災まちづくりのイメージは堅苦しい雰囲気になりがちだが、それと対極にあるような雰囲気だった。
- ・さらに、**多様な人が参加**していて、それぞれがつながっているというのが特徴的だった。中学校と地域の関係も密に感じた。
- ・今回の話し合いや取り組みのポイントは「**災害を正しく知る**（新聞等）」、「**災害時に使える資源を確認していく**（しおさい公園等）」、「**人づくり**（防災まちづくりの人材育成）」、また先の3つのポイントをつないで楽しく「**持続させる**（楽しいイベント等）」ということだった。
- ・今回の話し合いで次の災害までにやらなければならないことが見えてきたと思う。まず、**住民から始めようという雰囲気**になっていて、とても楽しみに思っている。
- ・防災まちづくりを進めるためには、**住民先行行政後追い**となると良いということを今回のワークショップの第1回の講演でもお話ししたが、先程お話ししたシンポジウムの中でも同じことが議論された。ぜひ、今回のワークショップを活かして、住民先行の取り組みをしてほしい。そうすれば茅ヶ崎市は行政として支援の準備をしてくれるはずである。
- ・今日でワークショップは終了だが、例年、**次年度の夏頃にシンポジウム**を行っている。あと半年もあるので、半年間で皆さんが第一歩を踏み出していることを楽しみに、次の夏にまたお会いしたい。



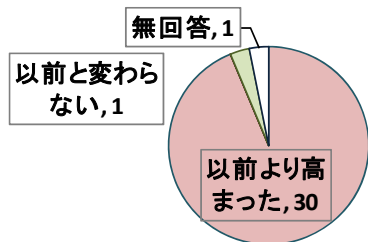
講評の様子

ワークショップのご感想 結果

第4回ワークショップの際に、ご記入いただきましたご感想結果の一部をご紹介します。貴重なご意見をありがとうございました。(ご回答：31人)

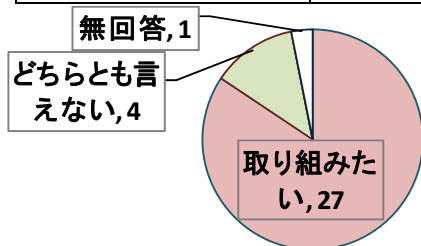
ワークショップ参加以降、防災への興味関心は…？

選択肢	回答者数
以前より高まった	30
どちらとも言えない	0
以前と変わらない	1



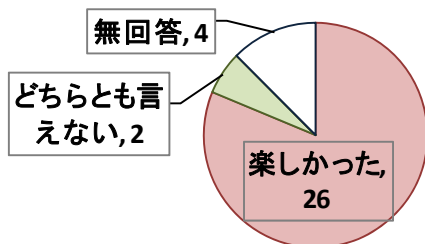
今後の防災まちづくりの取り組み意欲は…？

選択肢	回答者数
取り組みたい	27
どちらとも言えない	4
取り組みそうにない	0



本日のご感想は…

選択肢	回答者数
楽しかった	26
どちらとも言えない	2
つまらなかった	0



■防災意識を高めるために、このような機会をどんどん作っていただきたい。

■3.11以降年月がたったので防災意識が薄らいでいるというお話をされたグループがありましたが、本当にその通りだと思います。地域での防災（個人だけでなく）を考える良い機会になりました。

■柳島自主防災の責任者として長年携わってきましたが、今回のワークショップを通して、他地域、中学生の考え方等、今までの目線と違ったことを多く教わりました。良い機会を与えていただきありがとうございます。

■色々な目線からの色々な意見が聞けました。まずは、私達の出来る簡単なことから始めていかなければと思うワークショップでした。楽しい意見交換が出来ました。

■地域での将来へのまちづくりの意識を共有することはとても大事だと思いました。住みやすい地域につながってくると思います。

■各班の考えがそれぞれの立場からの視点で興味深かったです。

■今日のワークショップは今後の柳島のことを考えていて、とても驚く意見や面白い感想等がたくさんあったので、とても勉強になりました。

■自分たちでは、気づく事の出来なかった意見が聞けて、これからの中学生生活を改めることもできると思います。自分たちが考えたことをこれから少しずつでも実現できたら嬉しいです。

■地域と日頃から深く関わり、共助が必要なんだと思った。今回の発表を聞いて、防災対策について実現できそうな気がしてきた。これからワークショップで話し合ったことを活かして、今後の中学校の生徒会でみんなに広めることが出来たらいいなと思った。

■今回、これからぼくたちがやっていく課題のまとめは、これから色々な人に伝え、さらなる防災対策につなげていきたいです。

■各班、未来の地域をより良く、防災の意識を持ったまちになるといいなという考えを持って発表をしていたので、この防災への考えが、もっともっと広い範囲へと広まるとさらに防災に強いまちになるんじゃないかなと思いました。これから今回学んだことを大切にしていき、色々な人に学んだことを共感してもらいたいと思いました。

■地域の皆さんが防災に強いまちづくりを考えていることに驚き、また、感心しました。皆さんと一緒に防災に強い茅ヶ崎市にしたいと思います。